

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第80号

ななえ古写真物語

VOL. 80

埋もれた記憶

草刈り風景

昭和10年代

鳴川地区



nanae historical
museum collection

先日、来館して下さったお客様から寄贈頂いた一枚の写真。山裾まで広がる牧草地で、男女40名ほどが、刈り取った草を集めている様子です。服装を見ますと、ほっかむりに前掛けをした女性や、麦わら帽子をかぶった男性など様々で、ほとんどの人が長袖で袖をまくっていますが、中には上半身裸の男性もみられることから、夏の終わりから秋にかけての風景なのでしょうか？

また、憶測になりますが、作業している人が持っている棒は、フォークと思われ、これを用いて人海戦術で草を集めているのでしょう。その他にも、人々の後ろに、「レーキ」と呼ばれる洋式農器械を曳く馬の姿が見られることから、ひと昔前の農作業に馬がどれだけ活躍したかがうかがえます。

集められた草は、山のように（この山を「ニオ」と呼んでいたそうです）積み上げられ、しばらく外で乾燥させた後、冬場の飼料として納屋やサイロに運んだそうです。

寄贈して下さった方の証言によれば、場所は鳴川地区にある大槻食品よりも山側の斜面だということから、住宅が立ち並ぶ今とは異なり、とてもものどかな風景が広がっていたようです。

さて、ひとつ興味深い話も聞くことが出来ました。それは、写真中央に写っている低い山が、実はスキー場だったという話です。

過去に発行した「ピチャリ74号」でも、スキー場の話として、城岱スカイライン入口付近にあった「七飯スロープ」について触れ、詳細はよくわからないとしていましたが、ここにきて、さらに別のスキー場があったという話が出てきたわけです。

勉強不足を感じながらも、寄贈者にこの低い山に設けられたスキー場について、詳しくたずねたところ、名前は記憶にないが、「七飯スロープ」が出来るまで、スキー場といえば、この山のことを指し示していたということ、特に、リフトやロープ塔のようなものはなく、斜面の続く七飯町の立地を利用して、駅の方まで滑り降りていたことを聞くことができました。

駅まで滑り降りるという話は、七飯スロープと共通する話でもあるし、どちらのスロープも距離的にさほど離れていないので、さらに調査する必要がありそうですが、久しぶりの興味深い話でした。

どうやら、文献に記し忘れた記憶が、まだまだ埋もれているようです。

2日 夜の博物館第2回目は、宗像英明氏を講師にお招きし、駒ヶ岳でみられる高山植物を中心に講話して頂きました。昭和30年代の駒ヶ岳の姿から、現在みられる植物など、豊富な映像と興味深い話に、受講者の皆さんも、植物の意外な生態や驚きの世界に引き込まれていました。



9月の予定

1	月
2	火
3	水 夜の博物館
4	木
5	金
6	土 心あみりーでいみゆーじあむ「月見だんご」
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月 敬老の日
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火 テーマ展最終日・秋分の日
24	水
25	木
26	金
27	土 ジュニア探検クラブ
28	日
29	月
30	火



26日 昆虫採集・標本づくり教室を開催しました。午前中は、大沼を中心にあちこち虫を追い求めて移動し、午後からは、館で自分たちの採集した昆虫の標本づくりをしました。本格的な虫捕網を使った採集、そして、チョウやクワガタなどの標本づくりと、子どもたちにとっても、貴重な体験になったようでした。



30日 ジュニア探検クラブで、北斗市で調査中の「村前ノ沢遺跡」で体験発掘をさせて頂きました。遺跡とは何ぞや！という初歩的な説明から発掘のルールまで、ひと通り解説を受けた後は、実際に体験発掘です。小さなスコップで少しずつ掘っていくと、土器や石器が顔をだしてくれました。参加した子どもたち全員が、遺物を掘り出すことが出来て、とても楽しそうでした。北斗市教育委員会様ありがとうございます。



テーマ展開催中です！

只今、企画展示室においてテーマ展「半径4.8kmの自然誌」を開催しております。身近な自然に気付いて頂きたいという考えから、当館所蔵の剥製や標本、町内で撮影した草花の写真、そして鳥の巣や蜂の巣などを紹介しておりますので、是非ご覧ください。



※9月の休館日はありません。

ブドウ棚新設！！

当館の屋外見本園に植栽しているブドウの棚が、この度、新たな棚に生まれ変わりました。明治期の植栽方法を復元しますので、こちらの方もご覧ください。



編集後記 ~tawagoto~

今回の展示に使おうと、館の周りのコケをいろいろ調べていたら、思いのほか同定するのが大変なことが分かった。な～んだコケか・・・と思っている人も多いと思うが、顕微鏡で見ると、葉の形や付き方に違いがあることがわかって面白い。そして、手持ちの図鑑では調べきれないと判断し、蔦屋書店へ寄り道。ついでに目的以外のものまで購入させる店の魔力に操られてしまうのは、きっと私だけではないはず・・・。(やまだひさし)

Richart ~ピチャリ~
第80号

平成26年8月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp